

第1回

# ダニエル・カールの

## 消防団 コラム

### 日光市消防団連合会長が「日光市災害史」を出版

この美しい山、ご存知ですか？これは女峰山、標高 2,483 m の日光連山の中の名峰のひとつです。というわけで、今回は日光市消防本部の日光消防署からお送りします。しかし、こんなきれいな景色が見える職場っていいですね。

今日はこの方にお会いするためにやって来ました。

日光市日光消防団の団長で日光市消防団の連合会長でもある篠田英夫さんです。





**ダニエル** 初めまして、今日はよろしくお願ひします。

**篠田会長** こちらこそよろしく、ようこそおいでくださいました。ところで、ダニエルさんは、東日本大震災のボランティアにずいぶん熱心に取り組んでおられるようですね。

**ダニエル** 少しでもお手伝いをと思ひまして…

**篠田会長** 新聞などで拝見しましたが、大変なご活躍ですよ。

**ダニエル** 恐れ入ります。

いやいや過分なお言葉をいただきました。長年、消防団員として地域防災のために活動してこられた方に言われると、特に恐縮してしまいます。

**ダニエル** ところで連合会長さんというのはどういうお立場なのですか。

**篠田会長** はい、日光市は平成18年に周辺市町村と合併し、市域が非常に広くなりました。

しかし消防団はそれぞれの地域特性によって活動することが求められますので、合併前の形を活かして、今市消防団、藤原消防団、足尾消防団、栗山消防団そして日光消防団と現在の日光市には5つの消防団があるのです。

また、同じ市域にある消防団としての連絡体制や協力体制を強化するために消防団連合会というものを作っているのです。

**ダニエル** なるほど、その会長というわけですね。

**篠田会長** そうです。

今回お邪魔したのは、篠田会長が出版されたこの本についてお話をうかがうためです。その本というのは「近世からの日光市災害史年表」です。130ページに及ぶ大作です。



**ダニエル** どういうことがきっかけでこの本を作ろうと思ったのですか。

**篠田会長** 先輩の消防団員が、ある日、夜間警戒に出動していた時に、「日光には江戸よりも古い消防の歴史がある。」と言われたのです。

**ダニエル** 江戸時代の町火消みたいな感じですかね。

**篠田会長** そうですね。ただ、歴史があるといってもそれを検証した人はいませんでしたから、自分でそれを調べてみようと思って始めました。だいたい30年ほど前のことです。

**ダニエル** ずいぶん長い期間をかけて調査、研究をされたんですね。

**篠田会長** 始まりは江戸幕府3代将軍の徳川家光の時代に、現在の東照宮がほぼできまして、それを火災から守るために2人の大名に火消し役を命じたのです。

**ダニエル** なるほど、東照宮があったからということですね。

**篠田会長** はい。その後、防火の責任は日光奉行所に移され、5代将軍の綱吉の時代にはすでに町火消しの制度が日光に導入されていたようです。江戸に町火消し制度が導入されるのは8代将軍吉宗の時代ですから、その70年ほど前のことです。

**ダニエル** 江戸の町火消しより長い歴史があるんですね。ということは、ある意味で日光は消防団の発祥の地とも言えますね。

**篠田会長** おっしゃる通りです。

**ダニエル** 日光には何度も来ていますが、この本で自分の知らなかった日光のことが勉強できると思います。

**篠田会長** 私も消防団員として50年務めてきましたので、一つの区切りとして自分の調べた結果を多くの人に見てもらおうと思って出版しました。主に図書館や消防関係者に寄贈しました。

**ダニエル** 日光は、日本ではもちろん世界的にも有名な場所ですから、もしかしたら英訳の話が出るかもしれませんね。その時はオラに電話してください。

**篠田会長** (笑)そうになりましたらよろしくお願いします。

**ダニエル** この本を作成する中で、何か新しい発見はありましたか。

**篠田会長** はい。たとえば家康の遺骨が祀られている「奥の宮」と家康が神として祀られている「本社」の隣接地に「キササゲ」、「雷電木(らいでんぼく)」という植物が植えられていることです。

それが古文書の中では「ナナカマド」が植えられたとされています。つまり古文書と現物が一致しないのです。

**ダニエル** そうですか。そういうところも面白いですね。

これだけの本ですから、作成するには、いろいろとご苦労もあったと思いますが、何が一番難しかったですか。

**篠田会長** 資料を収集することですね。合併前の日光市史が作成されたことで資料がある程度整備されたことと二社一寺(東照宮、二荒山神社、輪王寺)に残っている資料があったのでなんとかやれました。

それでも、辞書ぐらいの厚みのある古文書の資料が20冊以上ありまして、それを5回は読みました。

**ダニエル** 古文ですから1冊読むだけでも大変でしょうね。それを、20冊以上を5回ですか。いやいや本当にご苦労様でした。



この本には、日光市の災害に関する事がいろいろと書いてあります。お話の中にもあった「町火消し」のことから「東日本大震災」に至るまで、ご自身が撮影された写真などの画像とともに解説されています。残念ながら販売はされていませんが、図書館などで閲覧できるとのことです。オラもこの本をじっくり読んでみたいと思います。

**ダニエル** 文化遺産が多い土地柄ですから消防団としても責任重大ですね。

**篠田会長** そうですね。この本の中にも書いていますが、昭和36年に東照宮の本地堂という建物の火災がありました。あの「鳴き竜」で有名なお堂です。

**ダニエル** そうだったんですか。

**篠田会長** その時は私も消防団員として消火活動にあたったのですが、太い柱などがあって注水がうまく行かず、とても大変でした。

**ダニエル** なるほど、一般の住宅火災とはだいぶ勝手が違うでしょうね。

**篠田会長** そうでしたね。出火したのは3月15日の19時ごろだったのですが、完全に火がおさまったのは、翌日の9時30分ごろでした。

**ダニエル** そうですか。厳しい活動があったのですね。しかも燃えたのが貴重な文化財で

もありますしね。

**篠田会長** ですから、火事が出さないことが一番です。当たり前のことですが。

**ダニエル** 当たり前のことですが、経験された方から言われると、ものすごく説得力があります。今日はどうもありがとうございました。



篠田会長は、東照宮で働いておられたそうで、その経験と50年以上に及ぶ消防団員としての経験があったからこそ「近世からの日光市災害史年表」を書き上げることができたのでしょうか。まさに文武両道、地域防災のスペシャリストならではの仕事です。

人材の宝庫と言われる消防団のすばらしい人材の1人に、日光でお会いすることができました。

